

2. (1)現計画の評価指標に基づく施策評価

計画改定の目的等

計画改定の背景・目的

- ・平成30年(2018年)12月に「都市・地域総合交通戦略要綱(平成21年3月国土交通省都市局制定)」に基づき、「枚方市総合交通計画(以下、現計画という。)」を策定
- ・その後、人口減少や少子高齢化の進展、コロナ禍による生活様式の変化、都市部における運転手不足を背景とした路線バスの減便や路線廃止の頻発化など交通環境を取り巻く状況が大きく変化
- ・一方で、デジタル技術の進化やDXにより、AIオンデマンド交通が広く普及し、自動運転の社会実装に向けた取り組みが本格化するなど飛躍的に技術革新が起こっている
- ・こうした中、令和2年(2020年)11月の法改正により、持続可能な旅客運送サービスの提供を確保する観点から、地方公共団体において、「地域公共交通計画」の作成が努力義務化された
- ・社会情勢の変化や近年の法改正を踏まえた中、現計画の「改定」に取り組むことで、今後、生じる恐れのある様々な課題に対して機動的に交通施策を講じ、多様な移動手段を持続的に確保していく

計画の区域

枚方市 全域

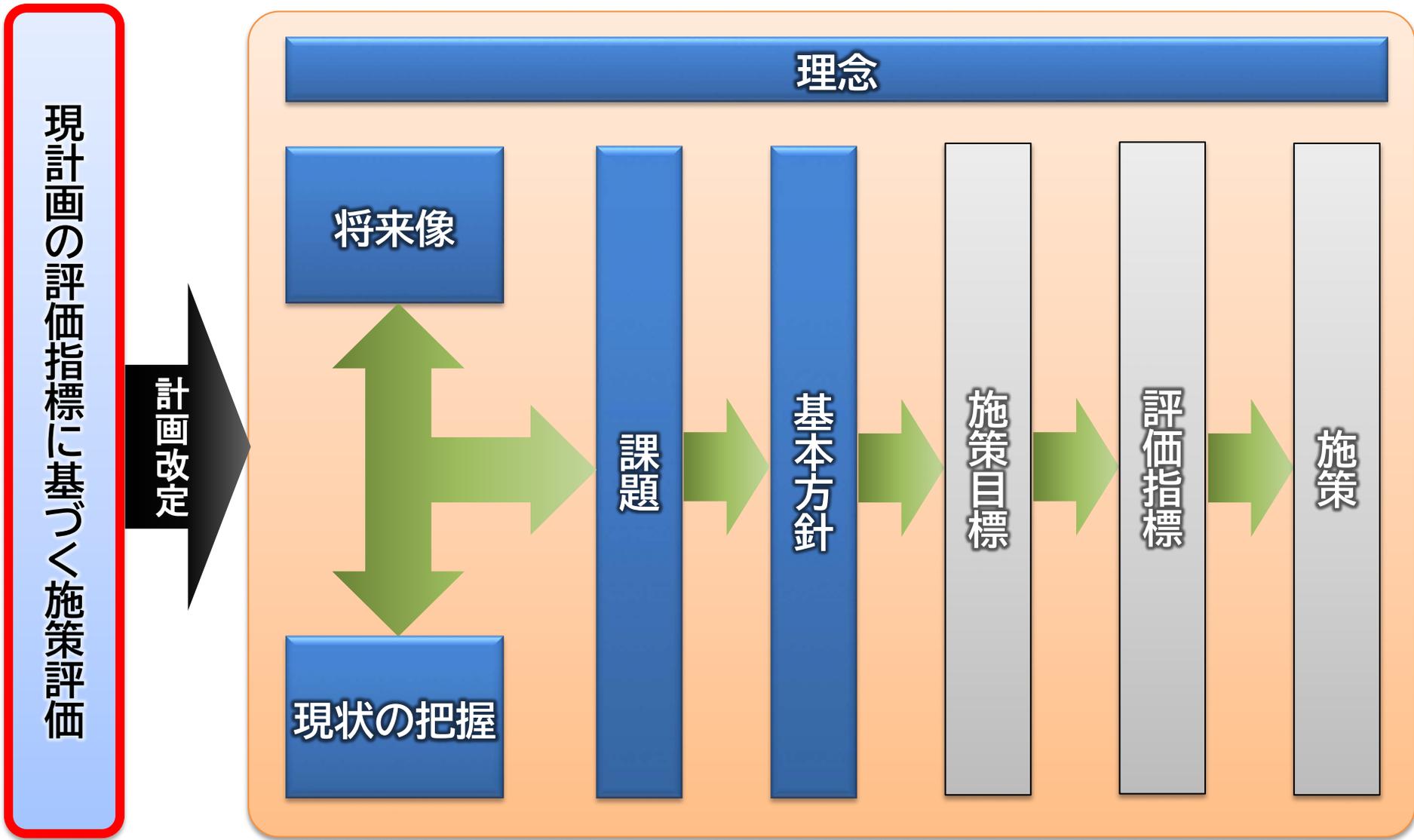
根拠法令

- ・都市・地域総合交通戦略要綱(平成21年3月 国土交通省都市局制定)
- ・地域公共交通の活性化及び再生に関する法律(令和2年11月改正)

計画の期間

令和7年度(2025年度)～令和16年度(2034年度) 10年間※5年間で中間見直し
※社会情勢の変化や都市の課題、技術革新に対応していくため上記期間内においても必要に応じて見直しを行う

現計画の評価指標に基づく施策評価



施策体系図

共通施策 現況把握や将来推計のためのデータの整備と分析

I 可視化資料の共有化

項目1. 交通に関する可視化資料の共有化(2)

基本方針1. みんなで考えささえる交通まちづくりの推進

望ましい都市像を実現するため、市民が自らの移動について社会における在り方を考え、また交通に携わる各関係機関や事業者はその社会的責任のもと、「交通まちづくり」を展望・実践していきます。

基本方針2. 誰もがおでかけしたくなる交通環境の実現

誰もが気軽に移動しやすい環境を実現するため、健康と賑わいの都市空間を交通からデザインしアプローチしていきます。

基本方針3. 未来へとつながる交通基盤と生活環境の構築

私たちにとっての快適な生活を実現するため、交通基盤と生活環境を着実に構築していきます。

①～⑤ 施策パッケージ
I～III 施策
1～20 項目
()内は事業数

① 持続可能な公共交通の実現

I バス路線の確保・維持・改善

項目2 路線バスの再編(2)

項目3 公共交通の利用促進のためのモビリティマネジメント(2)

II 公共交通のサービス向上

項目4 公共交通環境整備(5)

III 移動や外出の促進

項目5 多様な交通手段の確保(9)

② 交通が与える環境負荷の低減

I 環境にやさしい公共交通などの利用促進

項目6 環境に配慮した行動促進(4)

II 環境に配慮した都市の構築

項目7 環境に配慮した都市の構築(3)

③ 賑わいあふれる駅前空間の構築

I 駅周辺の回遊性と賑わい、愛着がもてる交通環境整備

項目8 枚方市駅周辺再整備ビジョンの実現(4)

項目9 駅前広場の交通環境改善(2)

項目10 駅および駅周辺道路環境整備(6)

④ 快適な生活道路環境の実現

I 歩行空間や自転車通行空間の確保

施目11 道路空間の再配分(2)

項目12 歩行空間・自転車通行空間整備(3)

II 安全で安心な交通環境の整備

項目13 生活道路の交通環境整備(6)

項目14 交通安全環境の向上(7)

⑤ 機能的な道路ネットワーク構築

I 広域ネットワークの強化

項目15 高速道路整備(2)

項目16 淀川渡架橋整備(2)

項目17 淀川舟運事業(1)

II 渋滞緩和対策など、市内交通の連携強化

項目18 市内幹線道路の整備(5)

項目19 市内交通強化(3)

III 道路施設の適切な維持管理

項目20 道路の計画的な更新・改修・耐震化(3)

施策の実施状況

基本方針	施策パッケージ	施策名	実施状況
共通施策	現況把握や将来推計のためのデータの整備と分析	可視化資料の共有化	実施中
基本方針1. みんなで考えささえる交通まちづくりの推進	① 持続可能な公共交通の実現	I バス路線の確保・維持・改善	実施中
		II 公共交通のサービス向上	実施中
		III 移動や外出の促進	実施中
	② 交通が与える環境負荷の低減	I 環境にやさしい公共交通などの利用促進	実施中
		II 環境に配慮した都市の構築	実施中
	基本方針2. 誰もがおでかけしたくなる交通環境の実現	③ 賑わいあふれる駅前空間の構築	I 駅周辺の回遊性と賑わい、愛着がもてる交通環境整備
④ 快適な生活道路環境の実現		I 歩行空間や自転車通行空間の確保	実施中
		II 安全で安心な交通環境の整備	実施中
基本方針3. 未来へとつながる交通基盤と生活環境の構築		⑤ 機能的な道路ネットワーク構築	I 広域ネットワークの強化
	II 渋滞緩和対策など、市内交通の連携強化		実施中
	III 道路施設の適切な維持管理		実施中

施策の実施状況

共通施策 現況把握や将来推計のためのデータの整備と分析

主な取り組み事例

※()内は実施主体

- 広報ひらかたに交通に関する特集記事を掲載(市)
- 総合交通計画施策パッケージの進捗状況のHP掲載(市)
- 枚方市バリアフリー推進協議会の協議内容等のHP掲載(市)
- 道路の整備に関するプログラムについてHP掲載(市)
- 通学路に加え未就学児の移動経路を含んだ「子どもの交通安全プログラム」の更新(市)
- 交通実態のわかりやすい動画のHP掲載(市)
- 「ノーマイカーデー」の広報啓発(市)
- 交通に関する調査データを整理してHP掲載(市)



評価指標の5年間の達成状況

共通施策 現況把握や将来推計のためのデータの整備と分析

指標	算出方法	単位	基準値 (計画時)	2019	2020	2021	2022	2023	目標 2028年度	データの 出典	達成状況 (2023年度時点)	
公共交通機関が整っているなど都市機能が充実していると感じている市民の割合	「感じている」「やや感じている」の割合の合計値	%	37.8 (2015年度)	41.9	—	—	—	52.1	↗	市民意識調査	4年毎	達成
外出率	パーソントリップ調査より	%	79.9 (2010年度)	—	—	73.7	—	—	↗	近畿圏 パーソントリップ調査	10年毎	未達成
交通に関する情報発信	関連するHPへのアクセス数	—	現況なし	現況なし	2,712	2,909	6,463	5,367	↗	市集計 (新規)	毎年度	達成

施策評価

- ◆ 外出率については未達成となっており、コロナ禍の調査であったことが一因になっていると推測されるが、全世代において移動量が減少しているため、外出しやすい・外出したくなるまちづくりの取り組み強化が求められる
- ◆ 交通に関するデータを整備・分析して可視化・オープン化することは、交通に関する意識の醸成や交通施策への参画を促し、持続可能な公共交通の実現に向けて必要な取り組みであり、引き続き取り組む必要がある

施策の実施状況

基本方針	施策パッケージ	施策名	実施状況
共通施策	現況把握や将来推計のためのデータの整備と分析	可視化資料の共有化	実施中
基本方針1. みんなで考えささえる交通まちづくりの推進	① 持続可能な公共交通の実現	I バス路線の確保・維持・改善	実施中
		II 公共交通のサービス向上	実施中
		III 移動や外出の促進	実施中
	② 交通が与える環境負荷の低減	I 環境にやさしい公共交通などの利用促進	実施中
		II 環境に配慮した都市の構築	実施中
	基本方針2. 誰もがおでかけしたくなる交通環境の実現	③ 賑わいあふれる駅前空間の構築	I 駅周辺の回遊性と賑わい、愛着がもてる交通環境整備
④ 快適な生活道路環境の実現		I 歩行空間や自転車通行空間の確保	実施中
		II 安全で安心な交通環境の整備	実施中
基本方針3. 未来へとつながる交通基盤と生活環境の構築		⑤ 機能的な道路ネットワーク構築	I 広域ネットワークの強化
	II 渋滞緩和対策など、市内交通の連携強化		実施中
	III 道路施設の適切な維持管理		実施中

施策の実施状況

施策パッケージ① 持続可能な公共交通の実現

主な取り組み事例

※()内は実施主体

I バス路線の確保・維持・改善

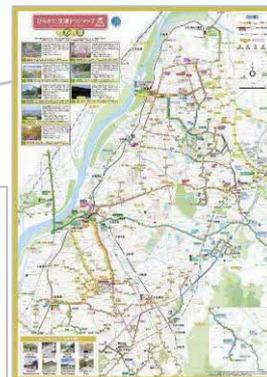
- ひらかた交通タウンマップ情報更新及び配布(市、交通事業者、NPO)
- 交通すごろくの作成及び出前講座の実施(市)

II 公共交通のサービス向上

- バス停上屋の設置(市、企業)
- 杉中学校下校便のダイヤ化を実施(交通事業者)
- 市立ひらかた病院前バス停発のバスを増便(交通事業者)
- 枚方市駅南口タクシー乗り場のスロープ設置(市)
- 枚方市駅3・4番線ホームにホームドアを設置(交通事業者)

III 移動や外出の促進

- 福祉タクシー基本料金助成事業(市)
- 福祉移送サービス共同配車事業(市)
- 高齢者お出かけ推進事業によるひらかたポイントの付与やタクシークーポンへの交換(市)
- ボランティア輸送支援制度を創設し2地区で実施(市)
- 自転車を利用した高齢者無料送迎サービス(香里が丘CORIO)(企業、市)



香里ヶ丘5丁目バス停



家具町一丁目バス停



取組期間
2018.4~2023.7

評価指標の5年間の達成状況

施策パッケージ① 持続可能な公共交通の実現

指標	算出方法	単位	基準値 (計画時)	2019	2020	2021	2022	2023	目標 2028年度	データの 出典		達成状況 (2023年度時点)
										立地適正 化計画	次回見直し 時期	
アクセシビリティ (最寄りの公共交通の利用しやすさ)	最寄りの公共交通を利用するまでの所要時間が20分以内の区域に居住する人口/市域人口	%	約84 (2017年度)	—	—	—	—	—	約84 (2026年度)	立地適正 化計画	次回見直し 時期	最新データなし
鉄道駅利用者の市域人口に対する割合	市内鉄道駅の乗降客数/市域人口(1日当たり)	%	69.3 (2013年度)	72.9	60.3	54.1	—	—	↗	総合計画	毎年度	未達成
京阪バス主要停留所乗降客数の市域人口に対する割合	京阪バスの主要停留所(枚方市駅、樟葉駅、長尾駅)の乗降客数/市域人口(1日当たり)	%	15.2 (2013年度)	15.0	10.7	11.9	—	—	↗	総合計画	毎年度	未達成

施策評価

- ◆ 鉄道駅利用者割合及び京阪バスの利用者割合については未達成となっており、コロナ禍の調査であることが一因になっていると推測されるが、特に京阪バスの利用者割合は2019年度から減少しており、公共交通利用促進の取り組み強化が求められる
- ◆ 人口減少・少子高齢化が進行するなか、持続可能な公共交通の実現は社会要請であり、重要施策として引き続き取り組む必要がある

施策の実施状況

基本方針	施策パッケージ	施策名	実施状況
共通施策	現況把握や将来推計のためのデータの整備と分析	可視化資料の共有化	実施中
基本方針1. みんなで考えささえる交通まちづくりの推進	① 持続可能な公共交通の実現	I バス路線の確保・維持・改善	実施中
		II 公共交通のサービス向上	実施中
		III 移動や外出の促進	実施中
	② 交通が与える環境負荷の低減	I 環境にやさしい公共交通などの利用促進	実施中
		II 環境に配慮した都市の構築	実施中
	基本方針2. 誰もがおでかけしたくなる交通環境の実現	③ 賑わいあふれる駅前空間の構築	I 駅周辺の回遊性と賑わい、愛着がもてる交通環境整備
④ 快適な生活道路環境の実現		I 歩行空間や自転車通行空間の確保	実施中
		II 安全で安心な交通環境の整備	実施中
基本方針3. 未来へとつなげる交通基盤と生活環境の構築		⑤ 機能的な道路ネットワーク構築	I 広域ネットワークの強化
	II 渋滞緩和対策など、市内交通の連携強化		実施中
	III 道路施設の適切な維持管理		実施中

施策の実施状況

施策パッケージ② 交通が与える環境負荷の低減

主な取り組み事例

※()内は実施主体

I 環境にやさしい公共交通などの利用促進

- バス！のってスタンプラリーやバスバックヤードツアーの実施(市、交通事業者、NPO)
- 民間事業者でカーシェアリングを実施(企業)
- 低公害車導入の推進(市)
- 自転車活用推進計画の策定(市)
- シェアサイクル事業の実証実験(PIPPA)(市、企業)



II 環境に配慮した都市の構築

- 都市計画道路に植樹帯を整備(市)
- 都市計画道路を透水性または排水性舗装で整備(市)



評価指標の5年間の達成状況

施策パッケージ② 交通が与える環境負荷の低減

指標	算出方法	単位	基準値 (計画時)	2019	2020	2021	2022	2023	目標 2028 年度	データの 出典		達成状況 (2023年度時 点)
公共交通利用促進啓発イベントの参加者数	鉄道やバスなど公共交通の利用を促進する啓発イベントの参加者数	人	832 (2015年度)	(累計) 5231 (単年度) 701	(累計) 5327 (単年度) 96	(累計) 5744 (単年度) 417	(累計) 6137 (単年度) 393	—	↗	市集計 (総合計画)	毎年度	達成
市域から排出される運輸部門の温室効果ガス排出量	年度の温室効果ガス排出量	千t-CO2	382 (2013年度)	344	303	300	—	—	326 (2022年度)	地球温暖化対策実行計画	毎年度	達成

施策評価

- ◆ 政府が“2050年カーボンニュートラル”を目指すことを令和2年に宣言し、脱炭素社会の実現に向けた取り組みがより一層求められるなかで、交通が与える環境負荷の低減にむけた取り組みを強化していく必要がある

施策の実施状況

基本方針	施策パッケージ	施策名	実施状況
共通施策	現況把握や将来推計のためのデータの整備と分析	可視化資料の共有化	実施中
基本方針1. みんなで考えささえる交通まちづくりの推進	① 持続可能な公共交通の実現	I バス路線の確保・維持・改善	実施中
		II 公共交通のサービス向上	実施中
		III 移動や外出の促進	実施中
	② 交通が与える環境負荷の低減	I 環境にやさしい公共交通などの利用促進	実施中
		II 環境に配慮した都市の構築	実施中
	基本方針2. 誰もがおいかけしなくなる交通環境の実現	③ 賑わいあふれる駅前空間の構築	I 駅周辺の回遊性と賑わい、愛着がもてる交通環境整備
④ 快適な生活道路環境の実現		I 歩行空間や自転車通行空間の確保	実施中
		II 安全で安心な交通環境の整備	実施中
基本方針3. 未来へとつながる交通基盤と生活環境の構築		⑤ 機能的な道路ネットワーク構築	I 広域ネットワークの強化
	II 渋滞緩和対策など、市内交通の連携強化		実施中
	III 道路施設の適切な維持管理		実施中

施策の実施状況

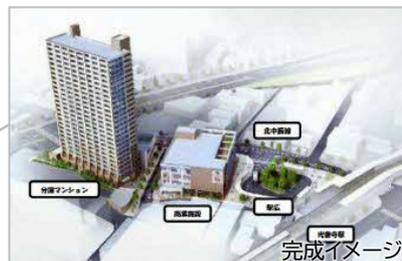
施策パッケージ③ 賑わいあふれる駅前空間の構築

主な取り組み事例

※()内は実施主体

I 駅周辺の回遊性と賑わい、愛着がもてる交通環境整備

- 樟葉駅前ロータリーの改良工事完了(市)
- 市道市駅前線歩道拡幅と府道京都守口線横断歩道橋へのエスカレーター設置完了(市)
- 樟葉駅前広場の環境整備実施(市)
- 枚方市駅北口駅前広場の整備(市)
- 光善寺駅西地区市街地再開発事業(組合、市)
- 京阪本線連続立体交差事業(大阪府)
- 市内13駅周辺を放置自転車禁止区域に指定し、指導・移送を実施(市)
- 枚方市駅周辺の迷惑駐車防止重点地域等における交通指導員、駐車監視員による指導・助言・啓発を実施(市、警察)
- JR藤阪駅内方線付き点状ブロック整備(交通事業者)



評価指標の5年間の達成状況

施策パッケージ③ 賑わいあふれる駅前空間の構築

指標	算出方法	単位	基準値 (計画時)	2019	2020	2021	2022	2023	目標 2028年度	データの出典		達成状況 (2023年度時点)
枚方市駅周辺が賑わい、魅力あふれる中心市街地であると感じている市民の割合	「感じている」「やや感じている」の割合の合計値	%	22.0 (2015年度)	42.6	—	—	—	40.2	↗	市民意識調査	4年毎	達成
枚方市駅利用者の市域人口に対する割合	枚方市駅の乗降客数(1日当たり)／市域人口	%	22.4 (2014年度)	24.1	19.0	19.0	—	—	↗	総合計画	毎年度	未達成
樟葉駅利用者の市域人口に対する割合	樟葉駅の乗降客数(1日当たり)／市域人口	%	15.1 (2015年度)	15.0	12.9	12.5	—	—	↗	枚方市統計書	毎年度	

施策評価

- ◆ 枚方市駅や樟葉駅の利用者割合については未達成となっており、コロナ禍の調査であることが一因になっていると推測される
- ◆ 外出や来訪したくなるような賑わいあふれる駅前空間の構築は、公共交通の利用促進にもつながるなど様々な波及効果が期待できる重要施策であり、引き続き取り組む必要がある

施策の実施状況

基本方針	施策パッケージ	施策名	実施状況
共通施策	現況把握や将来推計のためのデータの整備と分析	可視化資料の共有化	実施中
基本方針1. みんなで考えささえる交通まちづくりの推進	① 持続可能な公共交通の実現	I バス路線の確保・維持・改善	実施中
		II 公共交通のサービス向上	実施中
		III 移動や外出の促進	実施中
	② 交通が与える環境負荷の低減	I 環境にやさしい公共交通などの利用促進	実施中
		II 環境に配慮した都市の構築	実施中
	基本方針2. 誰もがおいかけしなくなる交通環境の実現	③ 賑わいあふれる駅前空間の構築	I 駅周辺の回遊性と賑わい、愛着がもてる交通環境整備
④ 快適な生活道路環境の実現		I 歩行空間や自転車通行空間の確保	実施中
		II 安全で安心な交通環境の整備	実施中
基本方針3. 未来へとつながる交通基盤と生活環境の構築		⑤ 機能的な道路ネットワーク構築	I 広域ネットワークの強化
	II 渋滞緩和対策など、市内交通の連携強化		実施中
	III 道路施設の適切な維持管理		実施中

施策の実施状況

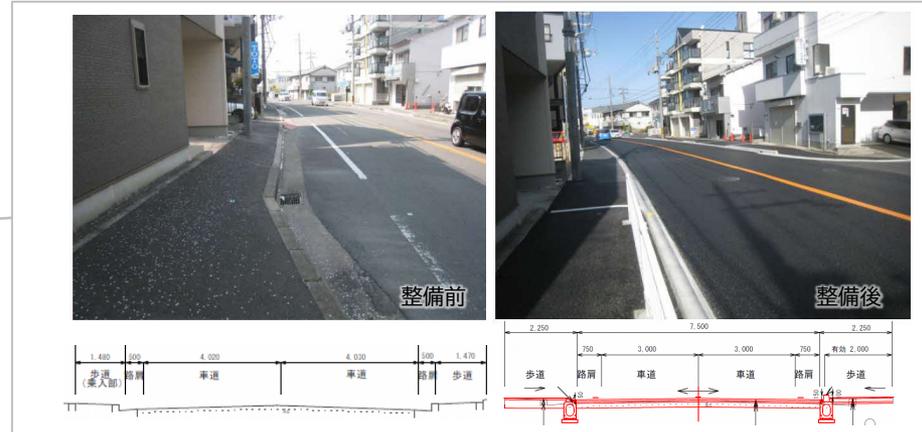
施策パッケージ④ 快適な生活道路環境の実現

主な取り組み事例

※()内は実施主体

I 歩行空間や自転車通行空間の確保

- 長尾船橋線の道路空間再配分の実施(市)
- 自転車ネットワーク計画に基づく自転車通行空間の整備(市)
- 新香里線・磯島第4号線・津田第1号線の歩道拡幅整備(市)



II 安全で安心な交通環境の整備

- ゾーン30及びゾーン30プラスを実施(市、警察)
- 小学校で交通安全教室を実施(市)
- 子どもの交通安全対策事業(市、警察)
- 枚方市無電柱化推進計画の策定(市)



評価指標の5年間の達成状況

施策パッケージ④ 快適な生活道路環境の実現

指標	算出方法	単位	基準値 (計画時)	2019	2020	2021	2022	2023	目標 2028年度	データの出典		達成状況 (2023年度時点)
安全で快適な道路環境が整っていると感じている市民の割合	「感じている」「やや感じている」の割合の合計値	%	27.6 (2015年度)	30.2	—	—	—	31.6	↗	市民意識調査	4年毎	達成
歩道の設置延長距離	市道における歩道の設置延長距離	km	114.7 (2014年度)	117.3	118.5	120.1	120.1	—	↗	総合計画	毎年度	達成
1人平均歩数	枚方市民1人当たり1日平均歩数	歩	現況なし	4,474	—	—	—	6,671 ※健康増進計画より	↗	市集計	5年毎	達成
交通事故件数(歩行者・自転車)	市内で発生した自転車や歩行者が関わる交通事故件数	件	597 (2014年度)	416	428	414	440	—	↘	総合計画	毎年度	達成
交通事故件数(車両)	市内で発生した車両が関わる交通事故件数	件	1,760 (2014年度)	1,188	1,127	1,059	1,173	—	↘	総合計画	毎年度	達成
交通安全に関する啓発イベント・教室講習などの参加者数	自転車や歩行者などの交通安全に関する啓発イベント・教育講習等の参加者数	人	19,149 (2014年度)	20,808	—	6,524	10,165	—	↗	総合計画	毎年度	未達成

施策評価

- ◆ 交通啓発イベント等の参加者については未達成となっており、コロナ禍の影響があったと推測される
- ◆ 快適な生活道路環境の実現に向けた取り組みは、市民が外出する際の障壁を取り除き、豊かな日常生活を営んでいくうえでも重要であるため、引き続き取り組む必要がある

施策の実施状況

基本方針	施策パッケージ	施策名	実施状況
共通施策	現況把握や将来推計のためのデータの整備と分析	可視化資料の共有化	実施中
基本方針1. みんなで考えささえる交通まちづくりの推進	① 持続可能な公共交通の実現	I バス路線の確保・維持・改善	実施中
		II 公共交通のサービス向上	実施中
		III 移動や外出の促進	実施中
	② 交通が与える環境負荷の低減	I 環境にやさしい公共交通などの利用促進	実施中
		II 環境に配慮した都市の構築	実施中
	基本方針2. 誰もがおでかけしたくなる交通環境の実現	③ 賑わいあふれる駅前空間の構築	I 駅周辺の回遊性と賑わい、愛着がもてる交通環境整備
④ 快適な生活道路環境の実現		I 歩行空間や自転車通行空間の確保	実施中
		II 安全で安心な交通環境の整備	実施中
基本方針3. 未来へとつながる交通基盤と生活環境の構築		⑤ 機能的な道路ネットワーク構築	I 広域ネットワークの強化
	II 渋滞緩和対策など、市内交通の連携強化		実施中
	III 道路施設の適切な維持管理		実施中

施策の実施状況

施策パッケージ⑤ 機能的な道路ネットワーク構築

主な取り組み事例

※()内は実施主体

I 広域ネットワークの強化

- 新名神高速道路整備の実施(NEXCO西日本)
- 府道京都守口線の道路拡幅(大阪府)
- 淀川舟運事業の促進(市、企業)



II 渋滞緩和対策など、市内交通の連携強化

- 京阪本線連続立体交差事業に伴う側道の道路整備の推進(大阪府、市)
- 都市計画道路長尾杉線・牧野長尾線等の整備(市)
- 都市計画道路牧野高槻線の整備(大阪府)
- 大阪地区渋滞対策協議会や枚方市域における交通問題に関する連絡調整会議を開催(国、大阪府、市、警察)



牧野長尾線

III 道路施設の適切な維持管理

- 橋梁長寿命化計画の推進(市)
- 主要道路リフレッシュ事業の推進(市)



長尾船橋線(整備前)

長尾船橋線(整備後)

評価指標の5年間の達成状況

施策パッケージ⑤ 機能的な道路ネットワーク構築

指標	算出方法	単 位	基準値 (計画時)	2019	2020	2021	2022	2023	目標 2028年度	データの出典		達成状況 (2023年度時 点)
										総合計画	毎年度	
幹線道路の整備率 (都市計画道路 整備率)	国道・府道を含 む幹線道路の 整備延長距離 ／計画延長 距離	%	61.8	60.2 ※1	60.2	60.4	60.9	—	↗	総合計画	毎年度	達成

※1 基準値より2019年度の整備率が下がった理由は、新たな都市計画道路の計画決定がされたため

施策評価

- ◆ 渋滞対策や利便性向上と都市間交流の促進、市内産業の活性化、災害時の防災機能強化など多岐にわたる効果が期待される機能的道路ネットワークの構築は重要であり、引き続き取り組む必要がある

施策評価のまとめ

■ 取組結果

- ◆ 大半の施策が計画に則して実施され、概ね評価指標の目標値を達成したが、着手できなかった施策もあり、また、実施された一部の施策では、新型コロナウイルス感染症の影響もあり、評価指標の目標値が未達成となっている

■ 施策評価

- ◆ 現段階で着手できていない施策や新型コロナウイルス感染症の影響を加味したとしても効果が十分確認できなかった施策については、それらの施策の必要性や効果、施策内容などを再検討する必要がある
- ◆ その上で、引き続き実施すべき施策については、新技術や先進事例なども取り入れ、発展的に他の施策へ組み換えることも視野に、実現性や施策効果を高めていくことが求められる

■ 計画改定に向けた改善

- ◆ 計画に定める将来像の実現に向け、施策と評価指標との相関性を更に高めていくなどの改善を行い、PDCAサイクルを着実に実施していく必要がある